

カラースライド：解説書

ね ず み

第2編

行動と被害

(31コマ)

監修：厚生省環境衛生局
水道環境部

企画：ねずみ駆除協議会

制作：東京文映株式会社

「ねずみ」シリーズ・スライドについて

—制作の意図—

人間と「ねずみ」との付き合いは、恐らく地球上に人間が出現した時からに違いない。そして永い間、「ねずみ」は人間生活を色々なかたちで脅かし続けてきた。

それなのに、ほとんどの人が全くと言える程、「ねずみ」について正しい知識を持たない。ねずみ駆除をしようとするとき、当然これに必要な知識を持たなければ、決して成功するものではない。そこで、特に、住民を指導する立場の人、駆除を業とする人、薬局や薬店で殺そ剤を扱う人はより専門的知識を持つ必要がある。

このスライドは、一般住民に対する教育・指導や、実際の駆除に携わる人達の知識向上を目的として制作した。

■スライドの構成

第1編「種類と習性」

第2編「行動と被害」

第3編「駆除」

■使い方

各編とも、それぞれタイトルに沿ってまとめ、コマごとに解説した。解説は簡略にし、必要な図・表を記載した。映写時の説明は、説明者が本書を参考にして行うこととし、解説テープは付けていない。

(スライド・解説書いずれも、当協議会の許可なく、複製・転用・転載を禁ず)

昭和54年8月

ねずみ駆除協議会

はじめに

ヒトの生活環境に住みつき、活動する唯一の野生獣であるネズミが、どのように行動し、そのためにヒトがどのような被害を受けているかを知ることが、駆除意欲を高め適切な駆除活動を推進する上で、欠かすことのできないことからである。

第1編「種類と習性」では、日本で問題となる住家性のネズミを中心に各種の特徴とその習性の概要を示した。

この第2編では、これらのネズミが、どのような所で、どのように行動しているかを、具体的にとらえると共に、被害の実態を知ってもらうことに重点をおいた。

〈ネズミの行動〉

家屋やその周辺に住みつき、ヒトの生活環境で行動するネズミは、クマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミの3種である。

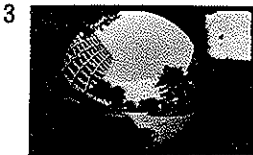
これら3種のネズミは、それぞれの習性に合った条件の場所にすみつき行動することによって、種間の争いを避け、それぞれの種が共に存続していく。いわば「すみ分け」を行っている。

このすみ分けは、住家性のネズミがヒトの生活に依存している以上、いつの時代でも一定しているものではなく、ヒトの生活環境の変化に伴って変化する。

たとえば、高度の都市化が実現し、地上は近代的高層ビルにおおわれ、路面は完全に舗装され、下水道の完備した区域では、かつては建物内全域にわたって行動していたドブネズミが、整備された下水道内に安住の地を見つけ、クマネズミがビル内のほとんどの場所を占拠し、ハツカネズミも部分的に生息するようになる。

したがって、ネズミ問題に直面したときは、まず広い視点から、対象地域の環境—とくに、環境の整備状態・構造・業種などを考えなければならぬ。必要があれば、わなでネズミを捕え、実態を調査する。

「生息種を確実につかむ」ことは、駆除対策をたてる上での基本である。



1. タイトル (行動と被害)

■ドブネズミの門歯

2. 都会とネズミ

■クマネズミとドブネズミ

●建物内にすみつける性質

クマネズミ、ハツカネズミ、ドブネズミが室内に適應できる性質を持っている。

このうち、ドブネズミは、その習性から、土中あるいは地表付近で、水気の多い場所を生活圏とすることが多い。

●都会—高度に近代化された構造をもつ地域でも、ネズミはその高い適應能力によって、生息場所を見つけてすみつく。

とくに、クマネズミとドブネズミは、それぞれの特性に合った場所に集中的に生息する。

3. ベッドタウン・中高層住宅のネズミ

■団地とハツカネズミ

近郊団地では、建物内にハツカネズミが見られ、クマネズミと共にその対策が問題になる。

また、低い階では下水道から排水管を通じて侵入するドブネズミも問題になる。ドブネズミの遊泳能力を忘れてはならない。(第1編 No.34参照)

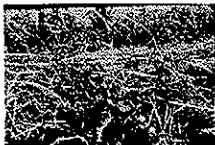
4. 下水道とドブネズミ

■下水道内部

下水道環境は—

- 1)餌を含んだ家庭雑排水が流入する。
- 2)温水使用により常時適温が保たれる。
- 3)外敵がない。
- 4)適度の水が、常時存在する。

などの理由から、ドブネズミにとっては、好条件の環境と言える。なお大型種のコキブリにとっても同様のことが言え、共に伝染病伝搬源となる。



5. ドブネズミの野ねずみ性

■屋外の鼠穴

- 水辺の土手などでもよく見られる。
土中に巣をつくり、地表に多数の穴をあけ、地中では上下・縦横に通路がある。数匹～数10匹の群をつくり、数10m²にわたって住みついていることもある。
- 養鶏場など畜産施設・ゴミ埋立地とその周辺にも見られ、家屋に近い水田・畑・ハウスなどにも、ドブネズミの生息を示す鼠穴が見られる。

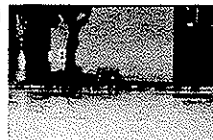
6. ビル内のクマネズミ

■ビルの地階、排気筒口

今や、大都市にあるビルでは、建物全体をクマネズミが占拠しているケースが多くなってきた。特に、下水道などの環境整備が進んだ都心部でこの現象が見られる。

■最近建築されたビルの場合

- 1)天井が低く、天井裏が狭い。
 - 2)天井裏は、配線、配管などに集約的に利用されている。
 - 3)すべての空間が、常に適温に保たれている。
 - 4)クマネズミの行動が立体的であり、乾燥をいとわないから、その性質に適した環境である。
 - 5)ドブネズミのほか、外敵の脅威が少ない。
- こうしたことが、クマネズミの住みつきを容易にしたものと考えられる。



7. ビルの廊下を走る、クマネズミ

■夜間のビル

ビルの夜は、ネズミにとって自由時間である。
廊下を、わがもの顔に闊歩するネズミだが隅を壁側にそって走る。
この行動は、自からの位置を知り、万一に備えた、習性なのである
(第1編、No26)

【8～12: 摂食の姿】

住家性のネズミ(クマネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミ)は雑食性である。雑食性であることによってヒトの住む場所やその周辺に広く住みつけるのである。

安全で、常にとりやすい餌場を見つけ、安全な時に、安全な通路をつたって餌をとりにくる。

多量摂食・多量脱糞—しかも糞は行動した場所で所かまわずバラ散られる。

黒く汚れ、ときにはいやな臭いさえるネズミの通路と、あちこちに見られる糞は、ラットサイン (rat sign) として、ネズミの生息と行動を知る上で重要な手がかりになる。(第1編・No28、29)

8. ピーナッツを食べる

ピーナッツは、ネズミの好む餌の一つである。
持てる大ききの餌は、前肢(足)で保持して食べる。これは他の個体から自分の餌を守る手段であり、最も安心した摂食姿勢でもある。
また、ネズミは噛むための門歯が内側に湾曲していることから、一般に噛みつきやすい「角」の部分から食いはじめる。

9. 小麦粉をなめる

前肢(足)で保持できない粉の餌は、なめることになる。
体についた粉も、それがたとえ餌でない粉であっても、なめ落す。
これは、感覚器官として最も重要な役目をもつヒゲをはじめ、体表感覚を常に整えておくための清掃行為なのである。

10. 煮干しを食べる、ドブネズミ

ドブネズミは、動物質の餌を好む傾向がある。
生(なま)魚は、概して腹部の腹わたから食ひ、共食いの場合も、首(くび)に噛みついて殺し、腹部を開いて内蔵から食うことが多い。
(煮干しを食べるこの写真のネズミは、尾から胸へと食い進んだ。)

11. うどんを食べる

前肢(足)をつかって、うどんを保持しながらだんだんに食い進めていく。

12. ゴキブリを食う、ドブネズミ

ドブネズミが生息する場所で、物かげに翅だけになったゴキブリの残骸を見ることがある。
ドブネズミは生きているゴキブリを食う。だからと言って、ドブネズミがゴキブリの天敵になるとは思えない。
そして、ゴキブリはネズミの糞も食べる。まさに、相互に、相携えて病気の伝搬役を務める。

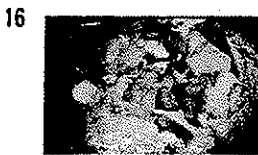
【13~14:クマネズミのラブサイン (rub sign)】

13. ビルの天井裏・クマネズミの糞

近代ビルの、狭くて足がかりの多い天井裏は、クマネズミの別天地である。

14. ビルの天井裏・クマネズミの巣あと

断熱材は格好な巣の材料となった。紙屑、布切れ、ポリ袋なども巣づくりに使われる。



【15~16:ドブネズミの巣】

15. ドブネズミの巣造り

ビルの1階で、ドブネズミの巣造りが進んでいる。
ビルには、目につかない意外な所に数多くの空間がある。

16. 巣の中の仔ネズミ

巣は、大体丸く造られる。まだ目の開かないドブネズミの仔ネズミが、身を寄せ合っている。生後3日位だろう。(第1編19-23)

【17~25:ネズミによる被害】

ネズミは、広く、ほとんどあらゆる場所に生息するから、それによる被害も多様である。

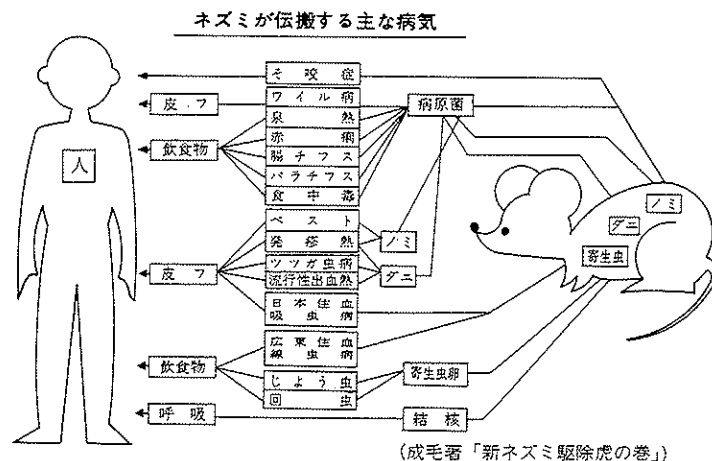
被害を大きく分けると、次のようになる。

■衛生上の被害

- 1)直接の被害:咬傷など
- 2)伝染病の伝搬:咬傷による感染、排泄物からの感染、昆虫、ダニなど外部寄生虫を介しての感染など。
- 3)その他疾病の伝搬:汚染個体の行動による伝搬
- 4)精神的不快:騒音、視覚及び臭覚的不快(含、排泄物、汚染等)
- 5)寄生虫による被害:ノミ・ダニなどによる刺咬

■経済上の被害

- 1)直接の被害-食害
農林・畜産・家具調度品・食品・衣類・その他各種施設など
- 2)間接の被害-直接被害から派生する各種の被害



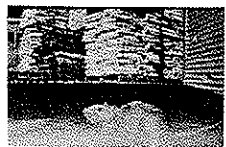


17. 18. 鶏舎での被害

ネズミに無関心な養鶏場では、飼育羽数に対し、少くみても10%以上の数のネズミがいる。

ネズミは飼料を餌にし、卵を食べ、破損させ、雛から親鶏まで襲い、寄生虫や疾病を伝搬し、建物や施設に損害を与え、夜間の行動が産卵の低下を起こすなど、養鶏業者に莫大な損害を与える。

ねずみ駆除によって得られる増収額は単に飼料損害分だけをとってみても、1万羽当月20万円を下らない、と云われる。



19. 冷凍倉庫に住みつくドブネズミ

3種のうちで、最も寒さに強いドブネズミは、冷凍倉庫の中にも住みつく。もちろん、冷凍食品の被害は馬鹿にならない。

住家性ネズミによる被害の中で、最も多いのは、やはり食料品の被害である。



20. コンピューター内にひそむクマネズミ

最近、コンピューターなど電子器機、精密機械の被害が増加している。コンピューターが断線事故を起こし、修理に手間どるのもネズミによる被害の特徴と云われる。

これらの被害は、そのために起こる派生的な損害の大きさを忘れてはならない。

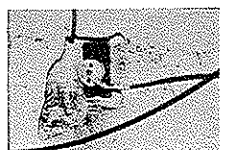


21. 22. コードを噛る

配線の被害は、元は発電所から末端は家庭・職場・交通機関（特に信号機）まで、あらゆる所で発生する。直接、間接の被害を考えると恐ろしくなる。

なお、配線を噛られることが、火災につながることを銘記しておくべきである。

また、ビニール被覆の電線は、ネズミが好んで噛る傾向があり、ショートによる発火・延焼も起りやすい。



23. 板をかじる

●ネズミが、物を噛る目的は

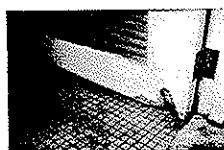
- 1) 通路をつくる
- 2) 食物をとる
- 3) 門歯の長さ、鋭さを調整するためである。(第1編、No30)

●ネズミは、木部に限らず、コンクリート、鉛管なども噛る。



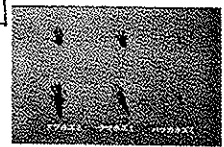
24. 台所の被害ードブネズミ

流し台の下を通る排水管はよくドブネズミがねらう箇所である。管の曲ったところや継ぎめを噛って穴を穿ち、下水との通路にすることがある。



25. ドアの被害

厨房や食堂などの扉によく見られるラブサインである。角のところに、鋭い小型のノミで掘りつけたような跡があり、新しいかじり跡の下には、鉛筆の削り屑に似た真新しい木屑が落ちている。



26. ネズミの足跡

足には5本の指と、裏側（床などに当る面）に、団子状の数個の突起（蹠球）を持ち、行動に役立っている。

そのため、ネズミによる汚れは、小花弁状のポツポツした足跡と尾を引いた跡の線状の汚れがあるのが普通である。この汚れが進むと全体に黒くなり、遂には黒光りして、悪臭も強くなる。



27. 病原菌を運ぶネズミの肢(足)

足跡から細菌の培養

凹凸の多いネズミの足の裏は、病原菌付着、運搬には好都合である。

汚染場所を行動した肢(足)で、台所を歩き回り、食品、食器に触れるネズミは、いろいろな病気をばらまいていることになる。



28. 食中毒

最もよく発生する食中毒に、サルモネラ菌によるものがある。その原因(伝搬者)として必ず問題になるのがネズミの生息である。

不特定多数の人を対象にしている食品製造取扱施設では、常にネズミのいない施設であることを心掛けねばならない。



29. 広東住血線虫

ネズミによっては、伝搬される寄生虫病も数多い。広東住血線虫病もその一つである。

●この線虫は、東南アジア・南太平洋諸島・沖縄南部・台湾に広く分布し、最近、日本への侵入が懸念され、特に港湾地域を中心に調査が進められている。

●広東住血線虫の幼虫は、ナメクジ・カタツムリ・淡水産貝類に寄生(中間宿主)し、またこれを食べたエビ・カニなども中間宿主となる。

この幼虫は、中間宿主を食べた哺乳類の体内(終宿主)で発育して成虫になる。また、中間宿主(ナメクジや、カタツムリ)によって汚染された食品を食べることによっても体内にとりこまれる。

●人にとり込まれた線虫は、肺動脈に住み、脳膜炎を起こし、ときには、短時日で死亡する。こうした過程の中でネズミの占める役割は大きい。

●また、同様の経過で、日本住血吸虫病の伝搬にもネズミが一役かっている。

欠巻

30



30. ダニ(イエダニ)

ネズミの体表には、ノミ・ダニ・シラミなどが付着している。このうちノミとダニが問題になることが多い。

ノミ・ダニとも、ヒトを吸血するが、吸血だけではなく、次の様な病気も媒介する。

1)ノミによるもの

ケオプスネズミノミ→ペスト

ヨーロッパネズミノミ→発疹熱

ヤマトネズミノミ→発疹熱

2)ダニによるもの

イエダニ→リケッチャ病

ツツガムシ→ツツガムシ病

トゲダニ→流行性出血熱

欠巻

31



31. 忍びよるネズミ

「地球上で最後に残る動物はネズミとゴキブリだ」と云われる。

このようにしぶといネズミは、その旺盛な繁殖力と高い適応性によって、常にヒトの世界への侵入をねらっている。

百害あって一利なきネズミを、この際改めて認識し、平素から、ねずみ対策を心がけ防鼠のための施設改善を図り、また積極的に駆除活動を展開してもらいたいものである。

【参考文献】

- 「ねずみ駆除ハンドブック」ねずみ駆除協議会編
「新・ネズミ駆除虎の巻」(成毛彦吉) 全国地区衛生組織連合会
「日本の風土病」(佐々学) 岩波新書

編集委員 池田安之助
伊藤 靖忠
元木 貢
永沼 清久
成毛 彦吉
高根 烈夫
田中 生男
(ABC順)

発行者

ねずみ駆除協議会

〒210
川崎市川崎区四谷上町10-6

日本環境衛生センター内

TEL. 044-288-4896

制作 東京文映株式会社
東京都新宿区西新宿7-22-38
〒160 興亜ビル
TEL. 03-361-8265